



駐日ポーランド共和国大使館



2020 年 8 月 14 日

ニュースリリース

「ポーランド・日本軍事協力の歴史的側面について——

明日のポーランド軍隊記念日を迎えるにあたって」

ポーランドの軍隊記念日は、ポーランド陸軍最大の勝利の一つを記念して、8 月 15 日に祝われます——1920 年 8 月、ポーランド陸軍はヴィスワ河の会戦で、兵力で大幅に勝る赤軍を倒し、それによって中央ヨーロッパ、さらには西ヨーロッパをボルシェビズムの荒波から救いました。多くの歴史家は、この会戦を 20 世紀の最も重要な会戦の一つと考え、傑出した戦略家・政治家のユゼフ・ピウスツキ元帥は、勝利の瞬間から、国民の英雄として広く崇拝されるようになりました。戦場の位置から、「ワルシャワの戦い」または「ヴィスワ河の奇跡」としても知られているこの会戦の命運が決したのは 8 月 15 日、この日は、聖母マリア聖天の日としても祝われており、勝利もまた伝統的に聖母の執り成しのおかげとされてきました。ポーランド軍の目覚ましい成功は、日本の軍人の大きな関心を惹きつけ、多くの人々が、戦間期にわが国を訪問し、会戦で用いられた戦術を極めて詳細に調査しました。今年 100 回目に当たるワルシャワ会戦記念日は、従って、ポーランドと日本の軍事協力の歴史的側面を記憶に刻む絶好の機会です。

1919 年 3 月 22 日、日本政府はイグナツィ・パデレフスキ内閣と 123 年間の分割占領期を経て独立を回復したポーランド国家を承認しました。実際には、両国関係は、主に軍事協力分野において、すでにそれ以前から始まっていました。1904 年 3 月に、日本の情報将校明石元二郎は、クラクフでロマン・ドモフスキに面会しました。同時期に、ポーランド社会党は、駐ロンドン日本大使館と連絡を取りました。当時のポーランド指導者ロマン・ドモフスキとユゼフ・ピウスツキは、それぞれ 1904 年の 5 月と 7 月に、日本を訪れました。1919 年 6 月に、後の陸軍大将・山脇正隆（1886—1974）は、参謀本部の非公式代表としてワルシャワでの任務を開始していました。1921 年に彼は、公式の初代武官に就任しました。

ポーランド国土を訪れた最初の日本人が、福島安正（1852—1919）中将であったことも思い起こすべきでしょう。1892 年 2 月、ベルリン—ウラジオストク間を 488 日で単騎旅行した途上でした。歴史資料によると、彼は、ポーランドでロシア情報を手に入れようと努めたそうです。

暗号学と情報活動分野における協力がとりわけ重要であったことは、戦間期に、日本陸軍参謀本部がポーランドとの軍事協力強化を目指して、主にソ連暗号解読技術に特化した、暗号学の講習をポーランド人専門家に依頼したことに、うかがえます。1923 年にポーランド参謀本部の暗号学者、当時は少

佐だったヤン・コヴァレフスキが、東京の参謀本部で三か月の講習を行い、その際、日本側の諜報技術研修生たちに、さまざまなソ連暗号の解読方法を伝えました。暗号化・暗号解読のすべての方法、外交・諜報暗号の混蔵などについての講義でした。ポーランド将校の訪問のおかげで、日本の暗号学の水準が少なくとも数段階向上したのに疑問の余地はありません。それは日本人に、独自の研究を行う頑強な基盤を与えました。ヤン・コヴァレフスキはその功績で、日本における最高の軍事勲章である勲五等双光旭日章の名誉を受けました。



コヴァレフスキ大佐は、ポーランド軍将校、暗号学者、数学者、言語学者、ルツィアン・ジェリゴフスキ將軍率いる第四歩兵射撃師団元参謀部長であり、対ボルシェビキ戦争において敵の暗号を解読した、ポーランド軍参謀本部第二部暗号課第二無線諜報局の創立者・長官（1919－1924）でした。2020 年は、「ヤン・コヴァレフスキ記念年」に制定されました。ポーランド・日本協力とコヴァレフスキ少尉という人物の格別の功績を称えて、ワルシャワの戦い 100 周年の 2020 年 6 月 30 日に、ポーランド郵便局は「ヤン・コヴァレフスキ少尉——偉大な暗号学者」（デザイン：ヤロスワフ・オヘンザン）が発行されました。

当時叙勲委員会委員長であったユゼフ・ピウスツキ元帥の決断により、1904－1905 年の日露戦争に軍功のあった 51 名に軍事功労賞を授与することに決まりました。それは、ポーランド独立回復の礎石の一つとして歴史に刻まれていた、日本兵による対露戦勝への懸賞の徴でした。盛大な勲章授与式は、駐日ポーランド公使館武官のヴァツワフ・イエンジェイエヴィチ中佐の管轄の下、1928 年 3 月に東京の帝国ホテルで催されました。

1941 年に外交関係が断絶しても、第二次世界大戦中、情報交換における二か国間協力は継続されました（カウナス領事館副領事杉原、駐スウェーデン日本大使館武官の小野寺中将とポーランド共和国参謀本部第二部将校のミハウ・リビコフスキ少佐の協力）。このテーマについての日本人の著作のうち、増永慎吾氏の「戦間期のバルト諸国における日本の諜報活動——1918－1940（The Inter-War Japanese Intelligence Activities in the Baltic States: 1918-1940）」（英文）は注目に値します。

ポーランド・日本協力の軍事的側面に関する歴史資料は、中央軍事図書館（ワルシャワ）にも所蔵されており、歴史の専門家に限らず大方に所蔵資料を公開しています。

文責：駐日ポーランド共和国大使館

駐日ポーランド共和国大使館

<https://www.gov.pl/web/japonia/ambasada>

tokio.amb.sekretariat@msz.gov.pl

Twitter: @PLinTokyo

Facebook: <https://www.facebook.com/Ambasada-RP-w-Tokio>

ポーランド広報文化センター

<https://instytutpolski.pl/tokyo/>

tokio@instytutpolski.org

Twitter: @PLInst_Tokyo

Facebook: <https://www.facebook.com/InstytutPolskiTokio/>